

- 2面 神奈川県立海洋科学高等学校
漁業ガイダンス開催〈三崎〉
- 3面 第14回就職支援検討委員会開催
〈九州関門〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3090号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2025年(令和7年)
7月5日
本紙は毎月5・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価 1部 50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

第80年度

中央コミュニケーションスクール

会社間の垣根を越えて交流を深める

6月12日、13日の2日間、ホテルマリナースコート東京で第80年度中央コミュニケーションスクールを開催した。

この中央コミュニケーションスクールは、所属会社が異なる全国の組合員同士の交流や組合の歴史を学び団結を深めることを目的として開催しており、今回は募集を行った結果、全国から30人の組合員が参加した。

他社の
組合員と
語り合う



第80年度 中央コミュニケーションスクール



フィールドワーク

初日は午前9時30分から開講式が開催された。禾野洗太執行部員の司会で始まり、齋藤洋中央執行委員から主催者代表あいさつが述べられた後、参加組合員が一人ずつ自己紹介を行った。

最初の講義は、初対面の

参加者の緊張をほぐす恒例の「アイスブレイク」で、組合員同士のあいさつから始まり、グループに分かれ意思疎通を図るためのジャンケン大会などゲームやレクリエーションを通じ、緊張もほぐれ和やかな雰囲気になった。

続いて木村俊暁総務部副部長が講師として「組合員について」をテーマに、組合員であることのメリットや共済給付制度、福利厚生として全日本海員福祉センター(JSS)の各種研修事業補助などが受けられるなどの説明と、執行部員の業務紹介も行い、質疑応答で理解を深めた。

午後の最初の講義は、チームビルディング・ワークショップで、参加者が6つのグループに分かれ、LEGOブロックを使い、テーマに合わせた作品を創作し、参加者同士

が作品について説明を行い、考え方の多様性をお互いに理解するために人に伝える、人から聞き出すことなど、コミュニケーションを深める方法を体験した。

初日最後の講義は、近年の労働情勢および労働組合法についてと題し、労働組合とは何ぞ知っておきたい法知識▽近年の労働情勢や、休憩時間と有給休暇、割増手当など船員法の特徴に加え、労働三権や不当労働行為などについて学んだ。参加者からは、パワハラだと判断するにあたっての重要なポイントはどこかなどの質問が出され、意見交換で理解を深め、初日の講義は終了した。

夕刻からは経験交流会として、ホテルマリナースコート東京からバスで5分ほどの施設へ移動し、BBQを楽しみながら、参加者同士が船内生活や仕事などについて経験談を語り交流を深めた。

2日目の午前中は、朝8時45分に集合し、ウォータースタジアムへ移動した。ここでは、東成マリン株式会社が運航する東京水辺ラインの「あじさい」に乗船し「海から見る東京湾見学」とするフィールドワークを行った。ウォータースタジアムを出発した後、レインボブリッジ、品川埠頭、大井埠頭、ゴミと残土の埋め立て地である海の森、有明埠頭を巡った後、越中島方面へ運河を上り、隅田川に入り西国橋付近で折り返し、隅田川を下り、ウォータースタジアムへ帰

着した。乗船中はガイドの稲垣勝彦さんからコンテナバースや停泊している船舶、国指定重要文化財の勝閣橋の説明を受けるなど、東京湾の歴史について学んだ。

最後に、修了式が行われ、齋藤洋中央執行委員から参加組合員代表として、マリックス物流サービス株式会社所属の恐田和奏さんへ修了証書が



修了式



田中伸一組合長代行のあいさつ



齋藤洋総務局長のあいさつ



講義のようす



アイスブレイク



フィールドワーク

手渡され、2日間の研修が終了した。

参加した組合員からは「講義を通じ、組合員と組合のことを理解することができてよかった」「組合に加入しているメリットを知ることができてよかった」「他社の組合員とコミュニケーションを取ることができてよかった」などの感想が聞かれた。

神奈川県立海洋科学高等学校

全国発信記事

漁師の仕事!知る授業 漁業ガイダンスで漁船漁業を学ぶ

三崎支部
＝発信



6月18日、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが企画する漁業ガイダンスが神奈川県立海洋科学高等学校の実習棟教室で、漁業ガイダンス「漁師の仕事!知る授業」が開催され、船舶運航科3年生33人と専攻科1年生7人、2年生1人の計41人の生徒が出席した。

この漁業ガイダンスは、全国漁業就業者確保育成センターが中心となり、大洋エアー・ドエフ株式会社・住吉漁業株式会社・共同船舶株式会社・株式会社長久丸・明豊漁業株式会社・福一漁業株式会社・金沢漁業株式会社など8船主と海員組合が参画した。ガイダンス開始にあたり、

6月18日、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが企画する漁業ガイダンスが神奈川県立海洋科学高等学校の実習棟教室で、漁業ガイダンス「漁師の仕事!知る授業」が開催され、船舶運航科3年生33人と専攻科1年生7人、2年生1人の計41人の生徒が出席した。

この漁業ガイダンスは、全国漁業就業者確保育成センターが中心となり、大洋エアー・ドエフ株式会社・住吉漁業株式会社・共同船舶株式会社・株式会社長久丸・明豊漁業株式会社・福一漁業株式会社・金沢漁業株式会社など8船主と海員組合が参画した。ガイダンス開始にあたり、

この漁業ガイダンスは、全国漁業就業者確保育成センターが中心となり、大洋エアー・ドエフ株式会社・住吉漁業株式会社・共同船舶株式会社・株式会社長久丸・明豊漁業株式会社・福一漁業株式会社・金沢漁業株式会社など8船主と海員組合が参画した。ガイダンス開始にあたり、

この漁業ガイダンスは、全国漁業就業者確保育成センターが中心となり、大洋エアー・ドエフ株式会社・住吉漁業株式会社・共同船舶株式会社・株式会社長久丸・明豊漁業株式会社・福一漁業株式会社・金沢漁業株式会社など8船主と海員組合が参画した。ガイダンス開始にあたり、



練習船・湘南丸



揚げ縄



投縄



水揚げ



揚げ縄



平岡英彦中央執行委員

松本順一九州関門地方支部長

第14回 就職支援検討委員会 —海洋教育と人材確保—

全国発信記事

九州関門
地方支部
＝発信



6月6日、福岡市博多区のリファレンス駅東ビル貸会議室で、船員教育機関と九州関門地方支部管内の担当各社が出席し、第14回就職支援検討委員会を開催した。この会議には、船員教育機関8校から9人、会社側35社から48人、九州運輸局から2人、海員組合執行部が15人の計74人が出席した。

はじめに主催者を代表して松本順一九州関門地方支部長から「この就職支援検討委員会は、平成21年から続けており、開催当初から船員不足は顕著であったが、現在はあらゆる産業で人材不足となっており、海陸で人材の奪い合いが始まっている。今回も情報を共有し、実務的な諸問題について意見交換を行い、官学労使で理解を深めたい」とあいさつした。

議事に入り九州運輸局海事振興部から、船員労働需給状況と運輸局の海洋教育および人材確保の取り組みについての報告があり、情報を共有しての意見交換が行われた。今回の議事では、本組合が課題に関するアンケートを教育機関と各社に実施し、調査結果を集約し資料とした。

▽船員になりたという目的意識を持った生徒が増えている。水産業の魅力を発信しながら生徒を募集していきたい。▽長期休暇を利用し、インターンシップおよび体験乗船などができるよう学校側も力を入れていく。

▽教員も不足しているため、各社からも教員を目指すよう協力いただきたい。

▽船員が少ない中、離職率を下げるよう取り組んでいる。意欲を持った人材に入社していただきたい。

▽インターンシップ後、なかなか入社につながらない。

▽船舶職員だけでなく部員も必要である。

▽女性船員について、大型船であれば受け入れのための環境整備も容易かも知れないが、小型船になると受け入れ環境の整備は難しい状況である。

▽改正育児・介護休業法に関して、規模の大きな会社の方が対応しやすく、一定規模のグループを作る必要があるのではないか。

▽司厨部の養成について、新卒者で船に乗りたという生徒はいるのか。また、各社の司厨部確保の取り組みについて教えてほしい。

学校側と船社側、それぞれから意見や要望など、課題についての意見交換を行った後、組合を代表して平岡英彦中央執行委員から「就職支援検討委員会も14回目を迎え、多くの方にご参集いただき盛大に開催できたことに感謝申し上げる。学校は船員を養成し、会社が採用し育てていかなければならない。本委員会が極めて重要な船員養成教育機関と各社のコミュニケーションの場であることから、これからも継続していきたい」とあいさつした。

本委員会を通じて、官学労使が協調し、若年船員の確保・育成に向け、次年度以降も本委員会を継続することを確認して、第14回就職支援検討委員会を終了した。

船社側意見

2隻の
遠洋マグロはえ縄漁船が
焼津港から出漁!

全国発信記事

三崎支部
＝発信



第十一住吉丸



第八東栄丸

三崎支部が担当する住吉漁業株式会社のグループ会社である三崎漁業株式会社の遠洋マグロはえ縄漁船「第十一住吉丸」と、同じくグループ会社の南洋水産株式会社の「第八東栄丸」が、6月10日と11日に、それぞれ静岡県焼津港から出港し北大西洋のマグロ漁場に向かった。

日本の主要なマグロ漁港といえる、神奈川県三浦市の三崎漁港、静岡県の焼津漁港と清水漁港で、この3つの港が遠洋マグロ漁業の基地港として昭和42年頃まで賑わった。しかし現在は、遠洋マグロはえ縄漁船が大型化し、冷凍マグロの受け入れ設備や、運搬流通網の変遷によって、三崎港での水揚げ量が減少するとともに、漁船の出入港数も減少し、三浦市三崎を拠点とする遠洋漁船も、焼津漁港から出港するケースが増えている。

また、日本一のマグロの水揚げを誇る焼津漁港は、静岡県の中央に位置し、関東と関西を結ぶ東海道のほぼ中央という、交通アクセスにおいて好条件な漁港で、日本一の水産県を自負する静岡県の中核として役割を果たしている。

第十一住吉丸と第八東栄丸の出港前に、両船を担当する三崎支部が訪船を行い、最近の組合活動と令和7年度労働協約改定妥結内容を報告し、組合員と意見交換を行った。そして出港時になると、岸壁で見送る家族や関係者から、安全航海と大漁を祈念するエールが送られ、両船とも汽笛で応え、舵を大海原に向けた。



焼津漁業資料館

焼津漁業資料館を訪ねて

JR焼津駅から徒歩5分ほどのところに、遠洋漁業の基地、焼津港がある。ここ焼津の漁業は、江戸時代から相当な規模で漁業が営まれてきたことが、幾多の文献で知られている。この先人の活躍で荒浜から焼津港まで成長してきた過程を後世に残すべく、焼津漁業協同組合が創立三十周年を記念して焼津漁業資料館を開館した。資料館は、1階と2階に分けられた展示室の構成で、1階には鯉船ブリッジに代表されるように、主に実際に使用していた漁船、漁具が展示され、2階は昔と現在の焼津港の写真、ネルや古文書などの古い文献、漁民の衣服や航海計器などが展示され、日本の遠洋漁業の技術の後世に伝承している。

さるびあ丸



東京のアイランド・伊豆大島
東海汽船株式会社の「さるびあ丸」に乗船して、伊豆大島の岡田港に到着しました。昭和のはじめから名物の椿や、あんこさんに代表される観光地として有名な大島は、川端康成の「伊豆の踊子」など多くの文学作品でも紹介されてきました。東京から一番近く大自然を満喫できる島には、岡田港と波浮港、元町港の3つの港があり、春夏秋冬どの季節でも楽しめる観光地ですが、海に囲まれた島独特の海水浴や釣りが楽しめる夏の季節に歩いてみました。

大島海浜植物群落
強い潮風にさらされている大島の海岸部では、風になけないたくましい植物が育ち、島の春夏秋冬を彩ります。海岸に切り立つ大小さまざまな崖は、海に囲まれた火山と水がせめぎあっていることをうかがわせていました。

波浮港と筆島
波浮港は昔、「波浮の池」と呼ばれていた火口湖で、大地震や大津波で海に通じ、港口の開削工事を完成して波浮の港と呼ばれ、沿岸漁業の中

心地として、また風の避難港としても各地の船が集まり隆盛を極めました。波浮の港には、幸田露伴、西条八十、林芙美子など、多くの小説家が訪れています。

公カオルのモデルになったタミとその家族は波浮の港で実際に生活を営み、お座敷がかかるたびに旅館などで踊りを披露したそうです。旧港屋旅館はその当時の様子をまるで時をさかのぼったかのような霧囲気て再現していました。

伊豆大島のシンボリック存在は、活火山で標高758mの三原山です。外輪山展望台からは、溶岩が一面に広がる荒涼とした景色が望めます。展望台に近い茶屋でひと息ついてと思い、天井を注文しました。大島名物の明日葉の天ぷらが絶品で、また食べに來たいと、再訪を期待してしまいました。一句。



地層大切断面

船旅 船旅 船旅

伊豆大島を歩く

東京都 ●広報室長 及川孝敏



伊豆大島

この大島公園海岸遊歩道は、2000年度に選定された「美しい日本の歩きたくなる道」500選の一つで、大島海浜植物群落には、ユリ科のアマドコロやキク科のインギクをはじめ、イヨカズラ、オオシマハイネズ、トバラ、ハマカンゾウ、ボタンボウフ、マルバアキグミなど、多くの貴重な植物が群生し、大島特有の自然を形づくっています。



波浮港

「富士箱根伊豆国立公園」に指定され自然公園法で守られている伊豆大島。豊かな自然や希少な資源のほか、地球の歴史を物語るジオパークとしての見どころも満載です。



筆島

夕陽の美しいジオパークと地層大切断面